

視点

野茂からダルビッシュへ 受け継がれる日本人 メジャーリーガーの誇り

スポーツ報知 大リーグ担当デスク 蛭間 豊章



イチロー、松井秀喜、松坂大輔に陰りが見えてきた2012年の日本人メジャーリーガー。その中で、日本のファンの期待に応えているのが、ポストイングシステムでレンジャーズ入りしたダルビッシュ有投手の活躍です。開幕から順調に白星、奪三振を伸ばし、中でも本拠アーリントンにあるレンジャーズ・ボールパークではデビュー7連勝。集客力としてのダルビッシュ人気も期待以上で、前半戦本拠8試合の平均観客数は4万5,385人、史上最高額の入札金5,170万ドル（約41億3,000万円）もけっして高くはなかったことを証明したようです。オールスター戦の“ファイナルボート”にも選出されて、ア・リーグの先発投手では8人しか選ばれていない球宴のベンチ入りを果たしました。

今年のダルビッシュ・フィーバーを見るにつけ、思い出すのは1995年ドジャース入りした野茂英雄投手の活躍。当時、私も初めてのメジャー取材で野茂を追っただけに印象深いものが有ります。近鉄バファローズとの契約問題が暗礁に乗り上げての渡米という事もあり、球界やメディアは野茂に批判的でしたが、そんな逆風をオープン戦3試合に11イニングで2失点（自責点1）の好投で首脳陣に猛アピール。マイナー契約からメジャー契約を勝ち取り、ローテーション入りも果たしました。開幕1か月は好投しても打線の援護がない試合もあり6試合で0勝1敗。それでも33イニングで49三振を奪っていました。6月2日のメッツ戦で初勝利を挙げると、6月は

6試合に登板し2完封含めすべて8回以上を投げきって6戦全勝。50回1／3で7失点（自責点5）。14日エクスポズ戦の16三振を始め60個の三振を奪いました。この快投で月間MVPに選出され、オールスター戦出場という切符も手にしました。防御率1位のグレッグ・マダックス（ブレーブス）が負傷すると「私の代わりに（オールスター戦の先発に）野茂を選んで欲しい」と進言。6勝はやや物足りなかったものの防御率2位で奪三振トップは、誰もが認める実力でした。晴れの舞台での先発にも臆せず2イニングを1安打3奪三振で無失点。オールスター戦開催のアーリントンの地元紙フォートワース・スターテレグラムは「野茂はすごい速球と悪魔のようなフォークボールを披露した」と絶賛。もちろん日本国内の盛り上がりもすごく、NHKが全国13都市31会場で巨大スクリーンを設置し。多くのファンが早朝、トルネードの快投を映す大画面を食い入る姿が見られました。

あれから17年。日本人メジャーの数は格段に増えてきましたが、結果を残す選手が少なくなって来ています。その点、ダルビッシュは、野茂、イチローのようにタイトルを掴んでメジャーのトップに君臨できる素質を十分に持ち合わせています。レンジャーズはワシントン監督以下、ナインもダルビッシュをサポート。打線の破壊力はメジャー30球団でも群を抜いています。まずは松坂が2年目にマークした18勝の日本人最多勝記録を塗り替えるのを楽しみにしましょう。